

ポルトウウィン・ピットクルーホールディングス (3657 東証マザーズ)

発行日: 2012/9/20
調査日: 2012/9/14
調査方法: 企業訪問等

**ゲームソフト等のデバッグとインターネット・サイト看視を手掛ける専門事業者。
2013年1月期は大幅増収・増益へ。海外展開を加速し持続的成長を目指す。**

> 決算サマリー

◆ ゲームソフト等のデバッグ・ネット看視のアウトソーシングで先行

・コンピュータゲームソフト等のデバッグ作業等を受託するポルトウウィン、インターネット・サイトへの不正侵入や投稿看視、ユーザーサポート等の業務を営むピットクルーを中心とする企業グループの統括会社。

・2013/1 期に入り、1) 欧州拠点でローカライズ業務の受注を開始、2) 米国に2カ所目の拠点を開設、3) 米・英・印の3カ国に跨り事業展開する e4e Inc. のデバッグ事業部門を買収契約締結等、海外展開を加速している。

◆ 2013/1 期は大幅増収増益へ、中期成長力は2割台と予想

・2013/1 期・第2 四半期累計期間は売上高 5,028 百万円(前年同期比32%増)、営業利益 857 百万円(同63%増)、純利益 450 百万円(同51%増)。パチンコ・スロット、スマートフォン用アプリ等のデバッグ業務が牽引した。

・2013/1 期(通期)会社予想は、売上高 10,875 百万円(前期比30%増)、営業利益 1,816 百万円(同42%増)、純利益 976 百万円(同50%増)。デバッグ事業の好調持続、海外事業の貢献等が主な増益要因。証券リサーチセンターでは、会社予想の超過達成は十分可能と考える。

・同社は、3カ年の中期計画も上方修正した。2015/1 期売上高は 14,451 百万円、営業利益 2,577 百万円、純利益 1,607 百万円。2012/1 期-15/1 期の3年平均成長率は、売上高年率20%、営業利益同26%となる。

> 投資判断

◆ 高い中期成長力を考慮すれば、直近予想 PER には割安

・同社の株価が類似会社に比べ予想 PER 等から見て低位にあるのは、同業者の収益性が低いネット看視事業の併営によるディスカウントと推察される。ただ当該事業は、ユーザーサポート、広告審査、システム看視等、従来と異なる業務が増加しており、同社の収益成長に貢献する事業に変容しつつあると考えられる。

・証券リサーチセンターでは同社の中期成長力を評価し、妥当な PER を12~14倍と想定。当センターの14/1 期予想 EPS305.5 円、15/1 期同392.4 円から、中期的な適正株価は3,660~5,490 円と算定する。

業種: 情報・通信業

アナリスト: 高坂 茂樹
+81 (0) 3-6858-3216
kousaka@stock-r.org

【主要指標】	2012/9/14
株価(円)	2,137
発行済株式数(株)	4,256,000
時価総額(百万円)	9,095
上場日(年/月/日)	2011/10/26
上場パフォーマンス(%)	-22.8

	前期実績	今期予想
PER(倍)	12.4	8.1
PBR(倍)	2.1	1.8
配当利回り(%)	1.8	3.0

	σ	β
リスク指標	—	—

【主要KPI(業績指標)】

該当なし

【株価パフォーマンス】

	1カ月	3カ月	6カ月
リターン(%)	-11.2	-12.3	-20.9
対TOPIX(%)	-10.7	-13.8	-9.7

発行日: 2012/9/20
調査日: 2012/9/14
調査方法: 企業訪問等

*用語の説明は最終頁をご覧ください

証券リサーチセンター
審査委員会審査済20120914

ポルトウウィン・ピットクルーホールディングス (3657 東証マザーズ)

> 収益モデル

決算期 単位:百万円	2011/1期 実績	2012/1期 実績	2013/1期 会社予想	2013/1期 予想	2014/1期 予想	2015/1期 予想	2016/1期 予想
売上高	6,865	8,364	10,875	11,000	13,500	15,500	17,500
(前期比)	6.4%	21.8%	30.0%	31.5%	22.7%	14.8%	12.9%
営業利益	770	1,275	1,816	1,850	2,150	2,650	3,000
(前期比)	59.8%	65.5%	42.4%	45.1%	16.2%	23.3%	13.2%
経常利益	769	1,280	1,822	1,850	2,150	2,650	3,000
(前期比)	46.7%	66.5%	42.3%	44.5%	16.2%	23.3%	13.2%
当期純利益	381	651	976	1,120	1,300	1,670	1,870
(前期比)	75.6%	70.8%	49.8%	72.0%	16.1%	28.5%	12.0%
期末株主資本	2,484	4,358	N.A.	5,201	6,177	7,443	8,845
発行済株式数(株)	180,800	4,256,000	4,256,000	4,256,000	4,256,000	4,256,000	4,256,000
EPS(円)	105.6	172.0	229.4	263.2	305.5	392.4	439.4
1株当たり配当(円)	28.5	38.0	54.0	65.0	75.0	95.0	110.0
BPS(円)	685.5	1,022.9	—	1,220.9	1,451.4	1,748.8	2,078.2
ROE	16.7%	19.1%	—	23.5%	22.9%	24.5%	23.0%
株価(円)	—	2,489	2,137	2,137	—	—	—
PER(倍)	—	14.5	9.3	8.1	7.0	5.4	4.9
配当利回り	—	1.5%	2.5%	3.0%	3.5%	4.4%	5.1%
PBR(倍)	—	2.4	—	1.8	1.5	1.2	1.0

(注) 1. 予想におけるPER、配当利回り、PBRは、レポート作成時の株価を用いて算出。なお、株式上場は2011年10月。

2. 2011年7月に1→20株の分割を実施。1株当たり指標は調整済み。

3. 持株会社は2010/1期が初年度。7月に1→20株の分割を実施。1株当たり指標は調整済み。

> 株価パフォーマンス



会社概要

> 事業内容

家庭用ゲームやソーシャルゲーム、アミューズメント機器に搭載されるソフトのバグ取り、ゲームの海外販売のための翻訳等を行っている。

ブログ・掲示板等への不適切な投稿の看視、B2C EC サイトの広告審査、ユーザーサポート等を営むのがネット看視事業。

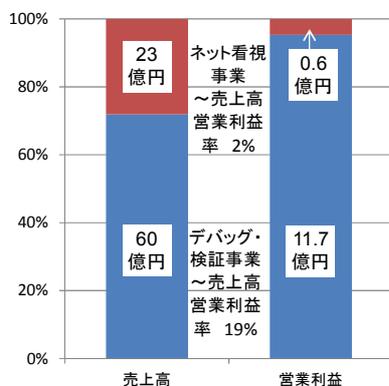
◆ ゲームソフトのデバッグ、ウェブサイトの「看視」等を受託

ポルトゥウィン・ピットクルーホールディングス株式会社(以下同社)が統括する事業子会社は、以下のデバッグ・検証及びネット看視の2つの事業及び付随するサービス提供を行っている。何れの事業も国内専業のバイオニアである。売上高、営業利益の構成は図表1の通りで、前者が収益源、後者は発展途上の事業と見られる。

1) デバッグ・検証事業：ポルトゥウィン等の子会社は、ゲーム等のテストプレイを行い、各種ソフトウェアの不具合(バグ)を検出する業務(デバッグ)を受託。コンシューマ向けコンピュータゲーム機用ソフト(以下家庭用ゲームソフト)、ソーシャルゲーム等のインターネット対応携帯端末向けコンテンツ、パチンコ・スロット(アミューズメント機器)搭載ソフト等のデバッグサービスが主力。情報家電・携帯電話やカーナビゲーションシステム等で同様の作業をする検証サービス、ゲームの難易度調整、ゲームソフトの海外販売の際に必要なゲーム画面のテキストや取扱説明書等の現地語訳・文化的差異の調整等のサービスも行っている(図表2・左)。

2) ネット看視事業：ピットクルー等の事業子会社は、インターネット上の各種サイトやインターネット通販等の電子商取引におけるユーザーの不正利用や不適切な広告の審査、ブログ・掲示板サイトなどへのユーザーの投稿内容に含まれる有害情報の検出・削除・運営企業への報告等のサービスを提供。同社では監視に見守るという趣旨を重ねて看視と称する。ゲームユーザーからの電話や電子メールでの問い合わせに対する返答等のサポート業務も受託している(図表2・右)。この他に報告セグメント以外の事業として、グループ事業に関連する市場の調査報告・出版等を、第一書林、第一総合研究所等の子会社が営んでいる(2012/1期売上高7百万円、営業利益14百万円)。

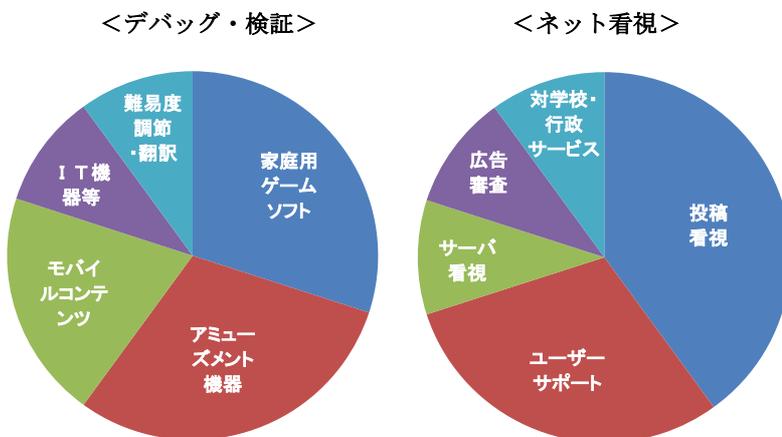
図表 1 セグメント別収益構成



(注) 売上高は外部顧客向け売上高、営業利益は全社費用等考慮前

(出所) 2012/1期決算短信

図表 2 各セグメントの業務別売上構成



(注) 構成比は近年の概況であり年度により変化するため数値は非開示

(出所) ヒアリングに基づき証券リサーチセンター作成

決算サマリー

> 2013/1上半期実績

アミューズメント機器やモバイル向けのデバッグ業務が牽引し、収益は大幅に伸長。

◆ 2013/1 上半期は前年同期比 32%増収、営業利益 63%増

2013年1月期・第2四半期累計期間(2-7月期、以下上半期)の収益は、売上高5,028百万円(前年同期比32%増)、営業利益857百万円(同63%増)、純利益450百万円(同51%増)。

同社は好調だった第1四半期決算発表後に、上半期の業績見通しを期初公表値から以下の様に上方修正したが、着地はこれを上回った。売上高は期初4,193百万円→修正値4,662百万円、同順で営業利益517百万円→770百万円、純利益283百万円→438百万円。

事業セグメント別には、デバッグ・検証事業の売上高3,824百万円(前年同期比42%増)・営業利益865百万円(同79%増)、ネット看視事業は同順で、1,203百万円(同7%増)・15百万円(同12%減)。

デバッグ・検証事業では、パチンコ・スロット向け、次いでモバイル向けが、前年同期比増収に大きく貢献をした模様。ソーシャルゲームにおける「コンプガチャ」問題の影響は見られなかったようだ。主力の家庭用ゲーム向けは第3四半期が書き入れ時であり、上半期においては微増収にとどまった模様である。

ネット看視事業の売上高は前年同期比で増加も、2012/1下半期売上高を下回った(当該事業に季節的要因は見られない)。広告審査・ユーザーサポート等の業務への引き合いが増加している。

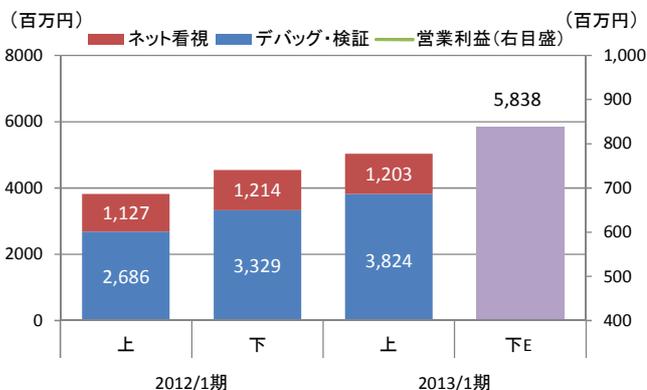
売上高が伸び悩んでいるのは、1) 新聞社・小売業等から、電子書籍やネット通販への参入に伴う広告審査・ユーザーサポート業務の新規受注がある一方で、問い合わせ件数等が想定より少ない場合、当該サイトが閉鎖されるか内製化され、契約が打ち切られる事例が散見されること(顧客の積み上げに至っていない)、2) ブログ・掲示板等の投稿看視業務が成熟段階に移行していること、等が要因と同社は分析する。また、受注体制拡充による経費増が利益を圧迫している。

図表 3 2013/1 期の会社側予想と実績

	当初予想 (百万円)	修正予想 (百万円)	実績/新予想 (百万円)	前期比 増減
<上半期>				
売上高	4,193	4,662	5,028	31.6%
営業利益	517	770	857	62.8%
経常利益	517	802	863	55.5%
純利益	283	438	450	50.8%
<通期>				
売上高	9,140	9,609	10,875	30.0%
営業利益	1,350	1,602	1,816	42.4%
経常利益	1,340	1,624	1,822	42.3%
純利益	766	921	976	49.8%
配当金(円)	44	54	54	42.1%

(出所) 2013/1・上半期決算短信

図表 4 事業セグメント別売上高と営業利益



(注) 2013/1・下半期は会社予想

(出所) 2013/1・上半期決算短信

> トピックス

M&A により海外事業展開が加速。なかでも実績豊富な e4e Inc.の貢献に同社は期待。

◆ M&A により海外事業展開が加速する見通し

今期に入り、以下のように同社の海外拠点拡大活動が加速している。

- 1) グローバルナビゲート(デバッグ、ローカライズ、ユーザーサポートの3業務の営業活動を一本化し、グループ内の複数子会社でサービスを提供する)を2012年3月に開始。
- 2) 同時期に Pole To Win America,Inc. (カリフォルニア州サニーベール市)が第2拠点をテキサス州オースティン市に開設(営業開始は8月)。
- 3) 11年8月に設立した欧州拠点(ロンドンの特別区ハウズロー)が12年5月にローカライズ業務(ゲーム内で表示されるテキストや取扱説明書の現地語化、文化的差異の修正等)の受注を開始。
- 4) 12年7月に同業者ウィンライトの国内及びシンガポールの子会社を買収(それぞれポルトゥウインネットワークス、Pole To Win Asia Pte.Ltd.と改称)。
- 5) 12年8月に e4e Inc.の米・英・印3カ国にまたがるデバッグ事業部門の買収契約を締結。当該部門の11/12期業績は売上高853百万円・税引前利益116百万円。買収額は約14億円となる見込み(9月末に買収が完了し、連結対象となる予定)。

同社は国内随一からグローバル No.1 へ、という標語を掲げ、将来的に国内と同等の売上高を海外で稼ぐ意向である。北米・欧州のゲーム市場(据置型・携帯型の家庭用ゲーム機及びPCを用いたゲーム)は、それぞれ2兆円程度・日本の3倍以上と言われる(同社決算説明資料)。家庭用ゲームソフトメーカーは元より、急成長してきたソーシャルゲームプロバイダーも海外志向を強めており、これに対応する体制整備が急務であった。

e4e Inc.のデバッグ事業は、グローバルに展開するソーシャルゲームやオンラインゲームの大手メーカーを顧客に抱え、デバッグ・ユーザーサポート・ローカライズ業務を10年以上に亘り手掛けてきた実績がある。このため同社の海外展開に大きく貢献するものと、同社は期待している。

> 2013/1(通)期予想

好調な国内デバッグ事業に買収した海外子会社の収益が加わり、大幅増収が続こう。

◆ 買収した海外子会社の貢献等で通期業績も大幅増収・増益へ

2013/1(通)期の会社側業績予想は、図表3の通り、売上高10,878百万円(前期比30%増)、営業利益1,816百万円(同42%増)、純利益976百万円(同50%増)、年間配当金は54円(前期は38円)。なお、配当金は第1四半期の上方修正時のまま据え置かれたが、同社の株主への利益還元の基本方針は配当性向25%とすることであり、会社予想業績が達成されれば、期末には増配幅を拡大させると予想される。

当下半期の見通しについて同社は、主にデバッグ・検証事業において、1) 買収した海外事業拠点の収益貢献、2) パチンコ・スロットやモバイル向け業務の好調持続、3) 第2四半期後半から受注増加が始まっ

ている家庭用ゲーム機向け業務の繁忙期入り、等を挙げている。これらの増収効果により、事業買収に伴う調査費用の発生やのれん償却(当期償却額は7千万円程度と見込まれる)、拠点増設・作業人員増に伴う費用増等を消込み、大幅増益が続くと同社は予想している。

証券リサーチセンターでは、会社側の予想は概ね妥当と判断。買収事業拠点との業務調整や為替変動リスク等を考慮し、同社はやや保守的な予想数値を公表しているものと考え、会社予想をやや上回る予想を立てた(2頁収益モデル、次頁図表7参照)。

> 中期業績見通し

のれん償却等の一時的費用から14/1期は利益率低下を想定。
デバッグ・検証事業だけでなくネット看視事業にも収益拡大に期待がかかる。

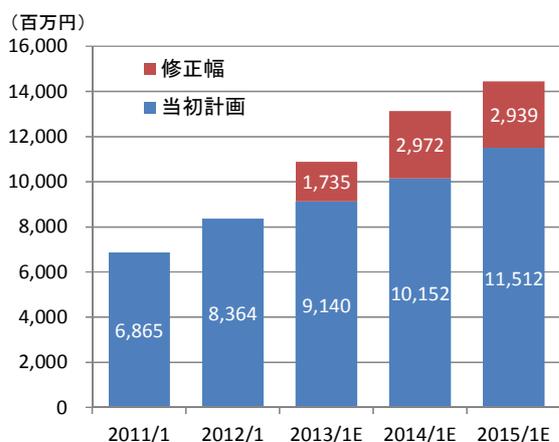
(注)クロスブラウザテスト: インターネットエクスプローラ、サファリ等複数のブラウザで同じ様にウェブページが表示されることを確認すること。OSの更新により表示不良が発生しないか確認する必要がある。ピットクルーの子会社ポートサイドがテストシステムを開発しサービスを開始している。

◆ 海外事業拡大、ネット看視の新規顧客開拓で成長続こう

同社は今期業績予想と共に、3カ年の中期業績見通しも上方修正した(図表5、6参照)。修正ポイントは以下の通り。

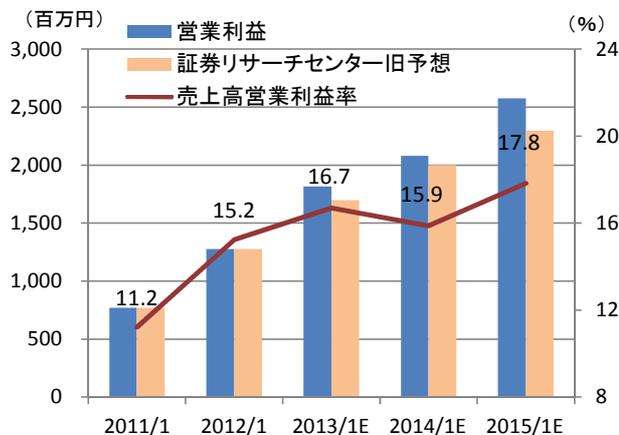
- 1) 国内におけるデバッグ・検証事業の成長率は鈍化が予想されるが、買収した海外拠点の収益加算、さらに新体制により日本企業の海外展開・海外ゲームメーカーの日本進出を強力に支援できるようになったことが説明会において強調された。
- 2) 2014/1期は、今期の積極的なM&Aに係るのれんの償却が重荷になる見込み。ウィンライトからの買収案件は今・来期の2年間で50百万円未満の金額を、e4e Inc.の案件は月額約10百万円の10年償却で、来期は今期よりも約80百万円負担が増加する模様だ。
- 3) ネット看視事業では、e4e Inc.がユーザーサポート業務を手掛けていること、マイクロソフトの新OS発売に伴うクロスブラウザテスト(注)等、子会社ポートサイドによるシステム看視の事業拡大が見込めること、等が増収要因として期待される。また今期は低採算でも広告審査業務等の新規顧客開拓に取り組んでおり、中期的に当該事業の採算改善も期待できるとしている。

図表 5 上方修正された中期計画の売上動向



(出所) 決算説明会資料

図表 6 修正中期計画の営業利益動向



(出所) 決算説明会資料、当センター予想は12年7月の前回レポート掲載数値

◆ 売上高年率 20%、営業利益同 26%の成長は達成可能と予想

同社の中期計画によると 2012/1 期-15/1 期の 3 年平均成長率は、売上高が年率 20%、営業利益が同 26%となる。現在 1 割弱の海外事業売上構成比は、来年度 15%程度、計画最終年度には 2 割以上に高まり収益を牽引すると同社は見込んでいる。

証券リサーチセンターでは、M&A により実績のある e4e Inc.のデバッグ部門の買収による海外顧客及びネイティブ作業員の獲得効果は大きいと評価し、当該予想は達成可能であると判断。

また、会社側計画の修正幅は 14/1 期 2,972 百万円→15/1 期 2,929 百万円とほぼ同額である。現時点で 3 年後の収益を下方修正すべき事案は見当たらず、M&A の効果は 15/1 期に拡大する可能性がある。以上より、図表 7 の通り会社予想をやや上回る業績推移を予想する。

なお、中期見通しに対するダウンサイドリスクとして、1) 法令・規則改正等によるパチンコ・スロット機器メーカーの失速、2) 家庭用ゲーム機の新型ハードの普及の遅れ、3) 長引く債務危機問題による欧州ゲーム市場の減退、4) 為替変動、等のリスクがある。

図表 7 中期収益予想モデル

(単位：百万円)

決算期	2010/1	2011/1	2012/1	2013/1E	2014/1E	2015/1E	2016/1E
売上高	6,450	6,865	8,364	11,000	13,500	15,500	17,500
(前期比増減)	484.1%	6.4%	21.8%	31.5%	22.7%	14.8%	12.9%
デバッグ・検証事業	4,329	4,703	6,015	8,400	10,500	12,000	13,200
(前期比増減)	6.4%	8.7%	27.9%	39.6%	25.0%	14.3%	10.0%
ネット看視事業	2,107	2,144	2,342	2,580	2,950	3,400	4,150
(前期比増減)	-25.8%	1.8%	9.2%	10.2%	14.3%	15.3%	22.1%
その他事業	13	17	7	20	50	100	150
(前期比増減)	#DIV/0!	23.8%	-58.5%	180.3%	150.0%	100.0%	50.0%
売上総利益	1,965	2,078	2,828	3,650	4,250	4,950	5,500
(前期比増減)	144.7%	5.8%	36.1%	29.1%	16.4%	16.5%	11.1%
(対売上高比)	30.5%	30.3%	33.8%	33.0%	33.6%	33.8%	33.6%
販売費及び一般管理費	1,483	1,307	1,553	1,800	2,100	2,300	2,500
(前期比増減)	17.7%	-11.9%	18.8%	15.9%	16.7%	9.5%	8.7%
(対売上高比)	23.0%	19.1%	18.6%	16.4%	15.6%	14.8%	14.3%
営業利益	482	770	1,275	1,850	2,150	2,650	3,000
(前期比増減)	161.6%	59.8%	65.5%	45.1%	16.2%	23.3%	13.2%
(対売上高比)	7.5%	11.2%	15.3%	16.8%	15.9%	17.1%	17.1%
デバッグ・検証事業	471	682	1,166	1,855	2,110	2,530	2,750
(前期比増減)	6.4%	44.6%	70.9%	59.1%	13.7%	19.9%	8.7%
(対売上高比)	10.9%	14.5%	19.4%	22.1%	20.1%	21.1%	20.8%
ネット看視事業	38	82	58	50	100	200	340
(前期比増減)	-25.8%	116.5%	-29.6%	-14.0%	100.0%	100.0%	70.0%
(対売上高比)	1.8%	3.9%	2.5%	1.9%	3.4%	5.9%	8.2%
その他事業	-1	-7	-14	-15	-10	0	10
(前期比増減)	#DIV/0!	—	—	—	—	—	—
(対売上高比)	#DIV/0!	-3069.8%	2467.6%	-832.1%	-666.7%	0.0%	2000.0%
消去又は全社	-26	13	65	-40	-50	-80	-100
(前期比増減)	#DIV/0!	—	400.0%	—	—	—	—

(出所) 決算短信、予想は証券リサーチセンター

投資判断

> 株価バリュエーション

◆ 類似会社と比べ予想 PER は低く、配当利回りは高い

デバッグ業務を手掛けるデジタルハーツ、ネット看視業務を手掛けるイー・ガーディアン、ウェブページフィルタリングソフトを手掛けるデジタルアーツとのバリュエーション比較を図表 8 に示す。

同社の今期予想 PER9.3 倍は、他社よりも低水準。予想配当利回り 2.5% も他社に比べ高く、今期はさらに配当金積み増しが濃厚と証券リサーチセンターでは予想している。実績 PBR2.09 倍は最低水準ではないが、労働集約的な同社の業務から考えて重要ではあるまい。

> 今後の株価見通し

◆ 中期成長力を考慮すれば、予想 PER14 倍程度が妥当と判断

同社の株価が類似会社と比べ予想 PER 等から見て低位にあるのは、同業者の収益性が低いネット看視事業の併営によるディスカウントと推察される。

ただ当該事業は、ユーザーサポートや広告審査、システム看視等、従来の投稿看視と異なる性格の業務が増加しており、中期的に同社の成長をサポートする事業に変容しつつあると考えられる。

中期成長性を考慮すれば、同社の株価はデジタルハーツ並みの予想 PER であっても違和感はない。証券リサーチセンターでは、妥当な PER を 12~14 倍と想定。当センターの 14/1 期予想 EPS305.5 円、15/1 期同 392.4 円から、中期的な適正株価は 3,660~5,490 円と算定する。

図表 8 類似会社とのバリュエーション比較

銘柄 証券コード	同社 3657	デジタルハーツ 3620	イー・ ガーディアン 6050	デジタルアーツ 2326
決算月	9月	3月	9月	3月
売上高	10,875	6,599	2,105	2,935
(前期比増減率)	30.0%	22.5%	10.4%	17.3%
営業利益	1,816	1,033	57	690
(前期比増減率)	42.4%	23.9%	-67.2%	14.4%
(営業利益率)	16.7%	15.7%	2.7%	23.5%
当期純利益	976	568	37	414
(前期比増減率)	49.9%	29.1%	-57.2%	-57.2%
純資産	4,353	2,266	925	3,212
ROE	19.1%	21.6%	12.6%	10.4%
予想PER	9.3	14.8	40.5	11.5
実績PBR	2.09	3.71	1.65	1.54
予想配当利回り	2.5%	0.7%	—	1.7%
過去3年成長率	13.9%	16.8%	60.5%	7.6%
〃 営業利益	62.6%	9.1%	1,240.9%	-2.3%
株価(9月14日)	2,137	1,448	910	34,950
時価総額	9,095	8,399	1,530	4,939

(注1) 予想収益は会社公表値。時価総額は自己株式含む。イー・ガーディアンの配当金は未定。

(注2) 過去3年成長率は、前期実績売上高の年平均成長率。PPHは3年前の10/1期との2年間の比較。

(注3) 純資産、ROE、PBRIは直前期実績、PERと配当利回りは会社予想を基にレポート作成時の株価で算出。

(出所) 各社決算短信等に基づき作成。

本レポートの特徴

■ 中立・公平な情報を発信

本レポートは、一般社団法人 証券リサーチセンターに所属している中立的な立場にあるアナリスト経験者が企業調査及び株価評価を行い、その調査レポートを早稲田大学知的資本研究会が監修することで、国内資本市場の活性化に向けた質の高い客観的な投資情報を提供します。

■ 隠れた強みを持ちながらも、市場から着目されていない企業を選定しカバー

新興市場を中心に、企業の知的資本（隠れた強み）を評価する手法などを活用することで、株価が適正に評価されていない上場企業を発掘し、アナリストレポートを作成・公表することで、企業評価の改善を目的としています。

■ 企業の KPI と知的資本(=隠れた強み)を読み手に伝える分析

本レポートの企業の分析・評価にあたっては、SWOT 分析や M. Porter の競争優位性分析など伝統的な手法を用いて企業の特徴を明らかにし、さらに、今後の成長を測る上で重要な業績指標（KPI）を掲載することで、幅広い投資判断情報を提供いたします。また、株式会社 ICMG が企業の知的資本を伝えるために体系化したフォーマットを採用し、これに基づいて、企業の隠れた強みを探る視点からも評価を試みております。

指標・分析用語の説明

■ 上場来パフォーマンス

新規上場時の公募価格をベースに算出した投資パフォーマンス（年率複利換算）を示すものです

■ PER (Price Earnings Ratio)

株価を1株当たり当期純利益で除したもので、株価が1株当たり当期純利益の何倍まで買われているのかを示すものです

■ PBR (Price Book Value)

株価を1株当たり純資産で除したもので、株価が1株当たり純資産の何倍まで買われているのかを示すものです

■ 配当利回り

1株当たりの年間配当金を、株価で除したもので、投資金額に対して、どれだけ配当を受け取ることができるかを示すものです

■ σ (標準偏差)

リターンのおぼつき度合いを示す統計値です。値が大きいほどバラツキが大きくなります

■ β (ベータ) 値

個別銘柄の株価変動の大きさが市場指数(例えばTOPIX)の価格変動に比べ大きい小さいかを示す指標です。ベータ値(β 値)が1であれば、市場指数と同じ動きをしたことを示し、1より大きければ市場指数より値動きが大きくなり、1より小さければ市場指数より値動きが小さかったことを示します

■ SWOT 分析

企業の強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)の全体的な評価をSWOT分析と言います

■ ESG

Environment: 環境、Society: 社会、Governance: 企業統治、に関する情報を指します。近年、環境問題への関心や企業の社会的責任の重要性の高まりを受けて、海外の年金基金を中心に、企業への投資判断材料として使われています

■ KPI (Key Performance Indicator)

企業の戦略目標の達成度を計るための評価指標(ものさし)のことです

■ 知的資本

顧客関係や業務の仕組みや人材力などの、財務諸表には表れないが、財務業績を生み出す源泉となる「隠れた経営資源」を指します。本レポートにおけるカバー対象企業の選定では、(株)ICMGの知的資本評価手法を活用しております。

■ 関係資本

顧客や取引先との関係、ブランド力など外部との関係性を示します

■ 組織資本

組織に内在する知財やノウハウ、業務プロセス、組織・風土などを示します

■ 人的資本

経営陣と従業員の人材力を示します

免責事項

・本レポートは、一般社団法人 証券リサーチセンターに所属する証券アナリストが早稲田大学知的資本研究会の監修を受け、広く投資家に株式投資の参考情報として閲覧されることを目的として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。
 ・本レポートの内容・記述は、一般に入手可能な公開情報に基づき、アナリストの取材により必要な補充を加え作成されたものです。本レポートの作成者は、インサイダー情報の使用はもとより、当該情報を入手することも禁じられています。本レポートに含まれる情報は、正確かつ信頼できると考えられていますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。また、本レポートは投資家が必要とする全ての情報を含むことを意図したものではありません。
 ・本レポートに含まれる情報は、金融市場や経済環境の変化等のために、最新のものではなくなる可能性があります。本レポート内で直接又は間接的に取り上げられている株式は、株価の変動や発行体の経営・財務状況の変化、金利・為替の変動等の要因により、投資元本を割り込むリスクがあります。過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、または保証するものではありません。特に記載のないかぎり、将来のパフォーマンスの予想はアナリストが適切と判断した材料に基づくアナリストの予想であり、実際のパフォーマンスとは異なることがあります。したがって、将来のパフォーマンスについては明示又は黙示を問わずこれを保証するものではありません。
 ・本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、一般社団法人 証券リサーチセンター及び早稲田大学知的資本研究会は、本レポート内に含まれる情報及び見解を更新する義務を負うものではありません。
 ・一般社団法人 証券リサーチセンター及び早稲田大学知的資本研究会は、投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならないため、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。
 ・本レポートの著作権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます